



親子が伝統文化に挑戦

伝統文化を体験できる「アピカでつなぐ伝統文化」がアピカホールで開かれ、親子連れが講師から弾き方や所作を教わりながら、箏や琵琶、日本舞踊などに挑戦しました。催しは、子どもたちに伝統文化を身近に感じてもらうと開催されたもので、今年で3回目。他にも、茶道や華道、歌舞伎衣装の着付けなどが体験できるコーナーや、講師による演奏や演舞の披露もありました。〔7月27日～28日〕



持続可能な社会を目指して

西脇市と西脇市社会福祉協議会、株式会社フジは、フードバンク活動に係る三者連携協定を締結しました。協定は、食品ロスの削減や生活困窮者支援の促進を目的に三者が協力するもので、市がやむなく廃棄される食品の無償提供を受け、市社会福祉協議会を通じて食品を必要とする方に無償で届けるもの。フジの山本昂樹執行役員は「地域と一緒に食品ロスに取り組むたい」と話しました。〔7月26日／市役所〕



もっと笑顔があふれる西脇に一西脇子ども会議

社会の一員である子どもたちの意見を出し合う「西脇子ども会議」を開催しました。今回は、「～もっと笑顔があふれる西脇にするために～『居たい』『行きたい』『やってみよう』こどもまんなかの居場所をつくらう」がテーマ。講師を務めた大阪教育大学の小崎恭弘教授から「子どもの居場所ってどんな場所？」と題した講義を受けた後、4班に分かれて「どんな居場所があればみんなが笑顔になれるか」について意見交換を行いました。

子どもたちは「やりたいことがのびのびできる場所」「友達と楽しく話せる場所」などと発表。小崎教授は「笑顔のときは好きな場所にいる、好きな場所にいるときは笑顔になるもの。笑顔と居場所はつながっている」と語りました。〔8月18日／みらいえ〕



平和の尊さを考える

平和展「サダコと折り鶴～『原爆の子の像』モデルになった偵子さんの願い～」で、原爆被害の実相を説明したポスター26枚を展示。戦争の悲しさを知ってもらうとともに平和の尊さを伝えました。〔8月5日～15日／みらいえ〕



水遊びを満喫

こどもプラザとNPO法人ファザリング・ジャパン関西による水遊びイベント「ウォーター☆パラダイス」に親子連れ77人が参加。子どもたちは水鉄砲の的当てや大きなシャボン玉などを楽しみました。〔7月28日／みらいえ〕



みらいえで夏祭り

「こどもプラザ夏まつり」をみらいえで開催し、多くの親子連れでにぎわいました。子どもたちは的当てや、子育て支援グループきらきらによる輪投げなどのゲームに挑戦。楽しそうな笑い声が響き渡りました。〔8月11日〕



「横尾忠則コレクションⅣ」展 開幕

西脇市出身で世界的美術家・横尾忠則さんの企画展「にしわき横尾忠則コレクションⅣ」展が、岡之山美術館で開幕。開館40周年を記念して、約500点の横尾忠則コレクションの中から、開館初期に展示したポスターや、横尾さんと西脇市の結びつきを示すポスターなど36点を展示しています。12月1日まで（休館日あり）。大人300円など。



盆踊りや屋台楽しむ

「第45回にしわき市・黒田庄夏まつり」に、市内外から約2600人が来場。浴衣姿の若者や家族連れなどが、毎年恒例の盆踊りや特産品が当たる福引などを楽しみました。フィナーレとなる約400発の花火が夏の夜空を彩ると、観客から大きな歓声が上がりました。〔8月16日／黒田庄グラウンド〕